

# 「京都創生総合戦略・レジリエンス・SDGs」推進本部

市民による自治120年



京都市  
CITY OF KYOTO

PIONEERED BY THE  
ROCKEFELLER FOUNDATION

100



CITIES

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

# 京都市レジリエンス戦略策定における、 京都創生総合戦略、SDGsとの融合の視点、 及び今後の方向性等について

## はじめに

京都市では、ロックフェラー財団の「100のレジリエント・シティ」選定（平成28年5月）を受け、これまで、市民とのワークショップや市民フォーラムの開催、市役所全庁体制のレジリエンス本部推進会議の設置による議論・検討等を重ねてきた。

これを基礎にしつつ、さらに、今日、「目に見えずに都市の持続可能性を脅かす最大の危機」ともいうべき人口減少が進行する社会状況を踏まえるとともに、国連で採択された、国際社会全体で持続可能な社会の実現を目指す2030年までの目標であるSDGsの取組を踏まえ、改めて「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略及びSDGsとの融合の視点を加え、レジリエンス戦略の検討・策定作業を加速化させていく。

# 1 「100のレジリエント・シティ」選定とこれまでの取組

## 世界の「100のレジリエント・シティ」への選定

平成28年5月、世界最大規模の慈善事業団体ロックフェラー財団による、国際的な課題に先進的に取り組む世界100都市への支援プログラム「100のレジリエント・シティ(100RC)」に、京都市が選定。



## ロックフェラー財団のプロジェクト(100のレジリエント・シティ)

2013(平成25)年にプロジェクト立ち上げ。本プロジェクトでは「レジリエント・シティ」を「あらゆる自然災害やテロ、人口減少等の危機、混乱等に耐え、可能な限り早急に復旧し、より強靱になっていく都市」とし、選定100都市に対して支援を行うこと等により、世界中にレジリエント・シティの構築を目指すことを目的としている。

### 【本市における選定以降の主な経過】

- H29. 2 アジェンダセッティング(課題設定)ワークショップ開催
- H29. 4 藤田裕之レジリエント・シティ京都市統括監任命  
第1回京都市レジリエンス推進本部会議開催
- H29. 10 第2回推進本部会議開催、重点的取組分野を決定
- H30. 1 京都市民フォーラムを開催



これまでの検討・取組により、以下の6つの重点的取組分野を設定

- ① 人が育つまち、
- ② 支えあい、助け合うまち、
- ③ 豊かに暮らせるまち、
- ④ 快適に住めるまち、
- ⑤ 環境にやさしいまち、
- ⑥ 災害に強いまち

## 2 都市のレジリエンスについて



### 「都市のレジリエンス」の定義づけ

戦略策定に当たり、改めて「都市のレジリエンス」について、実際の状況(危機の段階)に即した定義づけを、以下のとおり行う。

地震や台風等の自然災害やサイバー攻撃など「**外因的な目に見える危機(ショック)**」や、人口減少、地域コミュニティの希薄化、インフラの老朽化など「**都市の内部で生じる目に見えない危機(ストレス)**」に対し、

- ① 平常時に、それらの危機を「**予防・軽減**」するとともに、より安全・良好な状態に「**強化・向上**」させる

**予防・強化力**

- ② 危機が発生した際に、被害やマイナスの影響を最小限にとどめる「**強靱でしなやかな耐性**」を発揮するとともに、ピンチをチャンスに転じるべく危機に立ち向かう

**危機対応力**

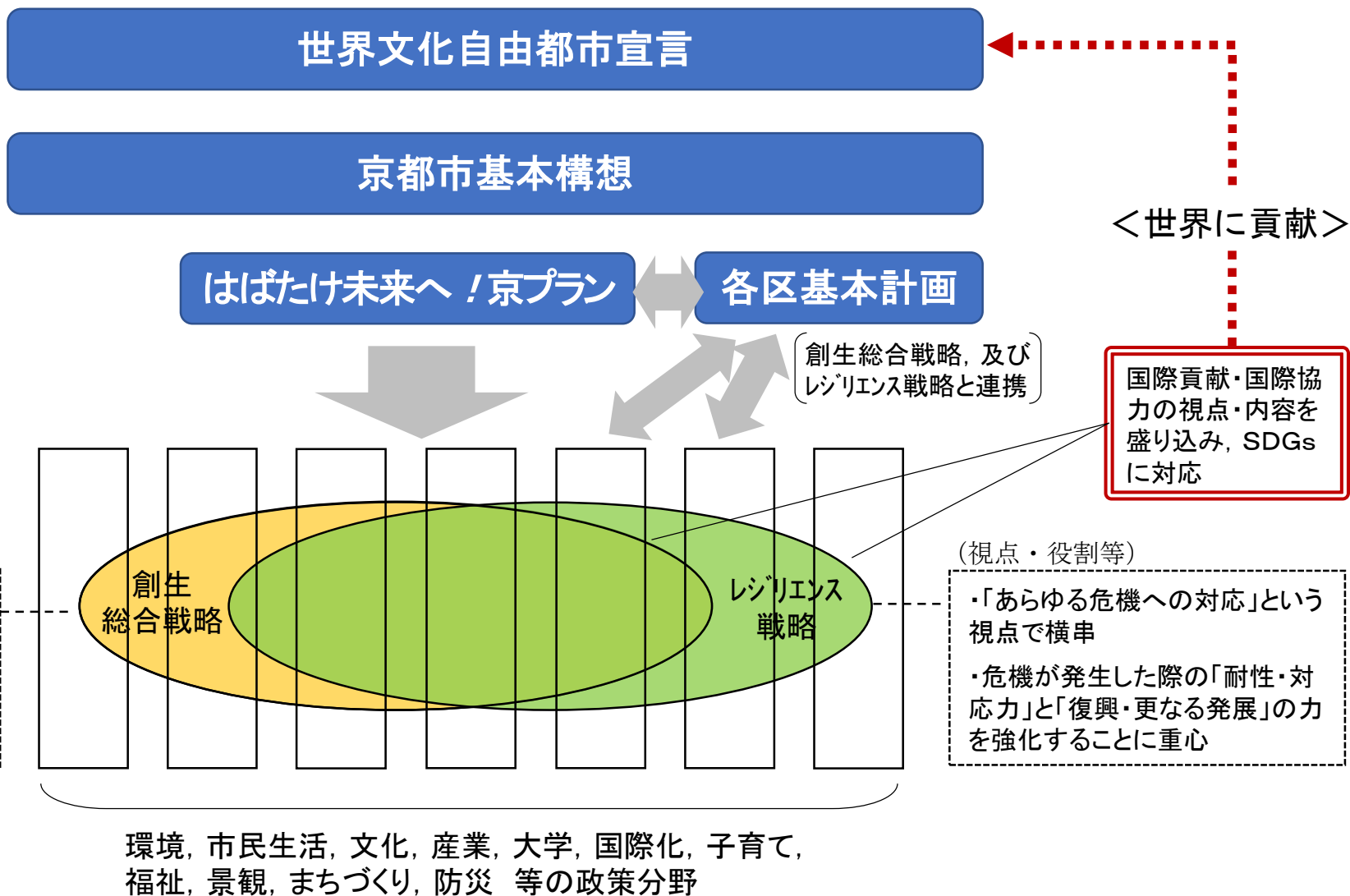
- ③ 危機に陥った状態からの「**復興・再生**」を果たしつつ、元の状態に戻る以上の「**更なる発展**」につなげる

**創造的再生力**

以上の、平常時の**予防・強化力**、危機発生時の**危機対応力**、危機からの**創造的再生力**を合わせた都市の能力 ⇒ **都市のレジリエンス**

### 3 戦略策定の意義（創生総合戦略・SDGsとの融合の視点等）

下記の3つの意義を反映・整理した、レジリエンス戦略，創生総合戦略，SDGs等の関係イメージ



## 意義1 本市政策に「あらゆる危機への対応・克服」という視点で横串を刺し、総合的・横断的に推進

本市の各種政策に対し、「あらゆる危機(各政策分野における様々な『危機』)に焦点を当て、対応・克服し、人々がいきいきと暮らせる魅力ある都市の実現を支える」という視点(切り口)で横串を刺し、分野横断的に既存の取組等を再点検。 ➡ 総合的推進を図り、政策の実効性を高める。

## 意義2 創生総合戦略等と連携し、平常時の予防等に加え、特に、危機発生時の「危機対応力」及び危機からの「創造的再生力」を重点的に強化

○危機への対策において、平常時の予防・強化が必要不可欠であると同時に、危機に対する都市の力量がよりシビアに試され、レジリエンスの真価が問われるのは、  
⇒ 実際に危機が発生した際の「耐性」と、危機からの「復興・更なる発展」の力

危機対応力

創造的再生力

○一方、「人口減少の危機への対応」においてレジリエンス戦略と密接につながる「まち・ひと・しごと・こころ 京都創生」総合戦略は、全体として、人口減少の進行に歯止めをかけること **予防・強化力** に重心

レジリエンス戦略は、**危機対応力** と **創造的再生力** に重心

➡ 創生総合戦略をはじめ本市の関連計画等と連携し、レジリエンスという視点で補完・補強する役割

## 意義3 SDGsと連動し、京都の課題に着実に対応、さらに国際社会の課題に貢献

レジリエンス戦略:あらゆる危機の克服により「持続可能な社会の実現」を追及  
⇒ SDGsと方向性が合致



京都におけるSDGsの推進=SDGsを踏まえて本市の課題への対応を図り、京都の強みを生かして施策を推進  
世界のためのSDGs=国際貢献・協力の視点や内容を可能な限り盛り込み、国際社会全体の達成に貢献

# 4 具体的取組の検討

## (1) 検討の進め方

これまで行った市民・有識者の意見聴取や庁内の意見交換等から出てきた課題等を踏まえ、**主な既存施策・事業、融合や見直し案、新規事業案等を検討**

① 各局区等への照会・ヒアリングなど（庁内での検討作業）

② 外部関係者等とのワーキングなど（庁外での検討作業）

### 【重点的取組分野の相関関係(例)】

①人が育つまち（人口減少・少子高齢化対策）

③豊かに暮らせるまち  
〔文化・芸術創生、  
経済・産業発展〕

②支え合い、助け合うまち  
〔地域コミュニティ活性化〕

④快適に住めるまち  
〔景観・街並み保全・創生、  
空き家活用促進〕

⑤環境にやさしいまち  
〔地球温暖化対策〕

⑥災害に強いまち  
〔防災・減災、インフラ老朽化対策〕

上記検討作業は、レジリエンス戦略と密接につながる創生総合戦略にも深く関わることから、**創生総合戦略の取組や課題等の点検を兼ねたものとし（政策の融合）、効果的・効率的な検討を行う**

# 4 具体的取組の検討

## (2) 検討の視点

### ① 京都の最大の強みである「地域力」, 「市民力」を重視

- ・ 京都のレジリエンスの最も基礎にあって、これまでレジリエンスの源泉となってきたのは「地域力」, 「市民力」 ➡ 京都のまちの最大の強みとして重視する。

【京都が誇る地域力, 市民力 (例)】

- ◆ 京都では、自治の伝統が息づく自治会や町内会が京都のまちづくりに大きな役割。
- ◆ また、PTA加入率が100%であることや、保護者・地域が学校運営に参画する学校運営協議会の全小学校設置等が、京都における「子育て・教育環境日本一」の実現を支えている。

明治期に発揮された地域力, 市民力

2019年は、番組小学校創設150周年

明治維新による都市衰退の危機の中、京都の人々は「まちづくりは人づくりから」と、地域で力を合わせ、日本初となる64の小学校を創設。その他様々な復興策に市民ぐるみで挑戦。今日の発展の礎を築いた。



- ・ 一方で、社会状況の変化の中で、自治会・町内会の加入率の横ばい等の課題も生じている。

そうしたことを踏まえ、以下につながる取組を重視し、検討。

- ① 地域での市民主体の取組や市民・行政協働の取組の推進
- ② 市民の価値観やライフスタイルの転換による人間力の向上と発揮
- ③ 持続可能な社会を構築する担い手の育成



## 4 具体的取組の検討

### (2) 検討の視点

#### ② 本市をとりまく危機をレジリエンスの視点でとらえ直す

- ・ 自然災害等の危機は、都市を問わず、常に潜在し続け、対応が求められる。
- ・ 一方で、本市において、既に危機が進行し、現に対応が深刻に求められているのは、人口減少、少子高齢化など「都市の内部で静かに進行し、危機として認識されにくいまま対応が遅れ、都市の持続可能性を脅かす危機」。
- ・ こうした危機にはほかにも、例えば、空き家の問題や、都市の財政力の問題等、様々な問題(危機)が。

**【空き家の問題】** 空き家の増加が、防災、防犯、生活環境、景観の保全上多くの問題を生じさせ、さらには地域コミュニティの活力を低下させる原因の一つにも。

**【財政力の問題】** 都市経営の観点から、都市の持続可能性と成長を支える基盤というべき財政力が不足。

これら本市をとりまく様々な危機(問題)を、改めてレジリエンスの視点でとらえ直し、レジリエンス戦略の役割等を踏まえながら、更なる取組の方策等を検討

#### 【レジリエンス戦略の役割】

危機(問題)への対応において、**危機発生時の「危機対応力」**、及び**危機からの「創造的再生力」**に重点を置き、本市関連計画や政策と連携しつつ、**レジリエンスという視点で補完・補強**。

# 4 具体的取組の検討

## (2) 検討の視点

### ③ 国際社会への貢献と京都モデルの発信

- ・ SDGsを踏まえて本市の課題に対応し、京都の強みを生かして施策推進(本市の取組)、さらに国際社会全体の課題解決にも資する視点で取組を検討(世界のための取組)。
- ・ 世界文化自由都市であり、市民生活と観光との調和のとれた質の高い観光都市 として、  
⇒ 文化交流や観光等による交流人口の増加や、留学生誘致の推進等を、都市のレジリエンスにつなげる



## レジリエンス・京都モデルとして国内外に発信

### 世界文化自由都市宣言 (1978)

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることを静かに決意して、これを誓うものである。

## 5 今後の主な予定



7～9月 関係各局区照会・ヒアリング※や外部関係者等ワーキングなど、  
戦略（素案）検討・作成作業

※今後、レジリエンスの視点で主な既存施策・事業の融合や見直し、新規事業等を検討

10月頃 レジリエンス戦略（素案）取りまとめ、市会報告

以降 各方面からの意見聴取、パブリックコメント等

年内 レジリエンス戦略策定（目標）